

2023 日中学術交流シンポジウムご案内（修正版）

テーマ：前四史（史記・漢書・後漢書・三国志）の学術研究

日時：2023年6月24日（土）9時～16時

会場：東京大学山上会館大会議室

主催：中華文化促進会 日中芸術と人文交流協会

主旨：二十四史は膨大な史料文献として中国と海外で一般にもよく知られています。

とくに「前四史」すなわち『史記』『漢書』『後漢書』『三国志』は他と比べても史料的価値が高く、古人の注釈も多い。このことを鑑みて、日中両国の史学界の「前四史」に対する研究を振り返り、中華文化促進会両国の著名な研究者を招いて日本で学術交流会を開催します。

今注とは中華書局の訓点本二十四史（1959～1978年）、同修訂本（2013年～）と、とくに中国社会科学出版社から刊行されたばかりの『今注二十四史』、すなわち『史記』全25冊（2021年4月）、『漢書』全28冊（2021年4月）、『後漢書』全24冊（2021年12月）、『三国志』全12冊（2020年10月）を指します。

事前申し込み

<https://forms.gle/K3Sn8rYaJ14c9Hfp6>

（日本側は25名までとさせていただきます）

プログラム：

開会の挨拶

9:00～9:05 張麗玲（日中芸術と人文交流協会会長）

9:05～9:10 王石（中華文化促進会会長）

9:10～9:15 陳諍（在日本国中国大使館文化参事官）

講演（午前）

9:20～9:50 楊海嶢（北京大学中国語学部教授・古典文献室主任）

「『史記』の現代的価値」

9:50～10:30 藤田勝久（愛媛大学名誉教授）

「日本と中国の『史記』テキストをめぐって」

10:30～11:10 小林春樹（大東文化大学名誉教授）

「正史としての『漢書』一注釈の対象としての『漢書』の性格について」

昼休み 11:10～13:00

講演（午後）

13:00～13:30 王勇「浙江大学教授・東アジア文化研究院院長」

「「新東亜学」視点での『後漢書』の整理と研究」

13:30～14:10 渡邊義浩（早稲田大学文学部教授）

「『三国志』裴松之注と『後漢書』李賢注」

14:10～14:40 周斌（四川大学教授・四川大学古籍整理研究所長）

「『三国志』校注雑談」

14:40～15:00 鶴間和幸（学習院大学名誉教授）

「中華書局版標点本・修訂本と今注本『史記』～秦始皇本紀を読む～」

質疑応答 15:00～15:30

閉会の辞 15:30～15:50 王石（中華文化促進会会長）